

<2019年度 ハローオリンピック事業>  
**オリンピック教室**

**実施報告書**

**群馬県 高崎市立大類中学校**





## 「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和元年5月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピアン自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）  
※派遣オリンピアンはJOC側にて選定
- 期 間** : 2019年4月～2020年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目  
運動の時間 (50分)



2時限目  
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施  
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

## 1時限目

### 運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介  
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動  
（作戦タイム等を設け、  
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

## 2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に  
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると  
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

### 座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用  
した自己紹介



オリンピック自身の経験に  
基づく「オリンピックの価値」等  
を伝える



グループ（個人）ワークで  
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



# 実施内容

■期 日 : 2019年7月17日 (水)

■ク ラ ス : 2年1組 (37名)、2年2組 (37名)

■オリンピアン : 星 瑞枝 先生 (スキー/アルペン) 【出場オリンピック/トリノ大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)

## 1. 自己紹介～授業の目的確認



## 2. 準備体操



- ・自己紹介の後、運動、座学の2時間を通してオリンピックやオリンピックバリューが皆の身近にもあるということを学んでいきたいと授業の目的を確認。
- ・運動の時間は「全力で取り組み、最後まで諦めないこと」、「仲間と協力し、チームワークを大切にすること」、「フェアプレー精神でルールを守ってお互いを尊重して取り組むこと」を約束事として守ってほしいと伝える。準備体操を行った後、ライン鬼ごっこを実施。

## 3. 主運動



- ・6班対抗で人間SLターンと、マーカーを置いたSLターンリレーを実施。
- ・各回終了後には作戦タイムを設け、速くゴールするためにはどうすればよいかを班毎に話し合った。

## 4. まとめ



- ・座学の時間では、授業冒頭に伝えたオリンピックバリューについて詳しく説明するので、みんなが運動の時間に取り組んだことの中でどんな事に当てはまるか、また普段の行動の中でもどのようなことが当てはまるかをグループワークで考えてもらい、発表してもらおうと予告し、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・トリノ大会の映像を見せながら競技の特徴やルールについて説明。
- ・星先生が経験を通じて感じたオリンピックバリューについて、「エクセレンス＝卓越、全力で取り組む、ベストを尽くす」、「フレンドシップ＝友情、仲間、チームワーク」、「リスペクト＝敬意/尊重、ルールを守る、フェアプレー、感謝」と説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



発問：個人の目標をそれぞれ班の中で発表し、代表1名の目標に対して、どのようなことを実践すればよいか、また周囲の人はそれをサポートするためにどんなことができるかを考える。

発表：各班の代表者1名が前に出て発表。（抜粋、順不同）

世界で輝き続けサッカー選手になるために、全力で練習する、チームを盛り上げる、コーチやチームメイト、審判に感謝する。

テストで学年1位になるために、1位の人に挑戦する、勉強を楽しむ。

プロ野球選手になるために、毎日全力で練習する、大会で優勝する、仲間も相手も大切にする、自分を支えてくれる人に感謝する。

新人戦で優勝するために、負けそうになっても諦めない、仲間と励まし合う、試合前後の挨拶を丁寧にする。

4. まとめ



・皆がこれから大人になっていくまでの1つひとつの行動が自分の財産になっていく。日常生活の中にオリンピックバリューを探し、自分の経験として蓄えてほしい。1日1日を大切に、周りの人に感謝しながら生活して欲しいと伝え、授業終了。



# 実施内容

■期 日 : 2019年7月17日 (水) 18日 (木)

■ク ラ ス : 2年3組 (37名)、2年4組 (37名)、2年5組 (37名)

■オリンピアン : 三宮 恵利子 先生 (スケート/スピードスケート) 【出場オリンピック/長野大会、ソルトレークシティー大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (5時限、1時限、3時限)

## 1. 自己紹介～授業の目的確認



・オリンピックを身近に感じてほしいと授業の目的を確認し、三宮先生の経験を通してオリンピックバリューについて伝えたいと話す。運動の時間は目標を設定すること、友達を思いやること、自分の経験を皆と共有することを意識して取り組んでほしいと伝える。準備体操のあと、じゃんけん勝ち抜けを3回実施。

## 2. 準備体操



## 3. 主運動



・3チームに分かれて、全員跳び、8の字跳びを実施。各チームで最初に目標を設定して、その目標を達成するためにはどうすればよいか作戦タイムを設けて考える。全3回実施。

## 4. まとめ



・同じことをやっても、それぞれ考えることが違ったり、目標を設定することによって、結果が変わってくる。授業冒頭に伝えた目標を持つこと、仲間と協力すること、自分の経験を皆と共有することもオリンピックバリューに当てはまっているので、次の座学の時間ではより深くオリンピックバリューについて話したり、皆で考えてもらったり、発表してもらおうと予告し、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（6時限、2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・長野大会の500mとソルトトレックシティー大会の開会式の映像を見せながら競技や当時の心境を紹介。
- ・三宮先生の経験を通じて感じたオリンピックバリューについて、「エクセレンス＝卓越、大きな目標のための小さな目標」、「フレンドシップ＝友情、仲間、チームワーク」、「リスペクト＝敬意/尊重、フェアプレー、感謝、思いやり」と説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：運動の時間に工夫してみたことや感じたこと、実践してみたこと、思ったこと等をオリンピックバリューに当てはめて書き出してみよう。
- 発表：各班の代表者1名が前に出て発表。（抜粋、順不同）
- 「目標を作って、それに向かって頑張るとより楽しくなった」「諦めない気持ちを持つことができた」(エクセレンス)
  - 「仲間と声を掛け合って何かをすることが大切」「運動が苦手でもチームの皆がいるからこそ頑張ろうと思った」(フレンドシップ)
  - 「スポーツに限らず物事をやるには協力や支えが必要、その支えてくれた人に感謝」「相手のいいところを真似した」(リスペクト)

4. まとめ



- ・どれほど強い選手でも、決して1人では戦うことができない。オリンピック教室で学んだことを、何か1つでもこれからの人生に活かしてほしいと伝え、授業終了。



■ 集合写真  
2年1組



2年2組





■ 集合写真  
2年3組



2年4組



■ 集合写真

2年5組





■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



2年3組



2年4組



2年5組



■ 修了証贈呈

